

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和7年2月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103839
法人名	社会福祉法人 中江報徳園
事業所名	グループホーム サンひまわり
所在地	鹿児島市下伊敷一丁目44番11号 (電話) 099-218-2045
自己評価作成日	令和6年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和7年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○法人の理念である『知恩報徳』を念頭に、グループホームの理念を掲げ、入居者様が明るく豊かな生活が送れますように、職員一同、その恩に感謝し社会への貢献を目指しています。

○国道3号線近くで交通の便も良く、利用しやすい場所に設置されています。近隣には玉江小学校や県立短大、商業施設もありながら、静寂な地域に立地し、住環境にも適しています。

○玉江コミュニティ協議会の一員として、公民館や近隣の学校などの地域行事へと参加、公園への散歩やベランダでの日光浴にて通行中の方へ挨拶するなど地域住民との交流が図れるよう努めています。

○いしき訪問看護ステーションと連携することで24時間の医療体制、玉水会病院との協力医療機関連携により、日常の健康管理においても安心して施設生活を送っていただけます。

○職員は法人内の勉強会、外部研修へも積極的に参加し、認知症ケアだけでなく、様々な分野の知識を深め、サービスの質の向上に努めています。

○法人内の管理栄養士、理学療法士などの専門職とも連携することで、栄養バランスのとれた季節の食材を活かした食材の提供、生活動作機能の向上に努め、入居者様が意欲的な生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は1階が道路に面しており、日光浴中にウッドデッキから知人等に声掛けや日常の挨拶をするなど、地域に密着したホームである。
- ・訪問看護師の健康チェックで疾病の予防や早期発見に努め、利用者が安心して生活できるように支援している。
- ・入所時マニュアルに基づき、看取りの説明で事前意思確認をして、早期から主治医・看護師・家族・関係者と話し合いを重ね家族と共にチームで支える、看取りの体制ができています。
- ・理念を毎朝黙読し、ミーティングで話し合い・見返り・ケアの実践に努めている。
- ・コロナ禍の中、毎日が楽しいものになるような工夫をした支援が出来ている。
- ・野菜の下ごしらえや台ふきなど利用者の残存機能を活かすことにより食事が楽しいものになるよう支援している。
- ・管理者や職員は数多くの研修や勉強会で資格取得に励み、日々のケアの質のレベルアップを図っている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員間での共有ができるよう玄関と事務所に理念を掲示、実践に繋げている	地域密着型の理念を、玄関・事務所に掲示している。毎朝理念を職員一人ひとりが黙読して支援に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	栄門町内会、玉江校区コミュニティ会議へ加入することでコロナ対応の緩和に伴い、地域行事への参加ができるよう支援している	町内会やコミュニティ会議に加入し、回覧板や清掃活動・文化祭に参加して、地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	去年は校区コミュニティより介護講習会の講師依頼を引き受け、民生委員や町内会の方と連携し介護、認知症支援の相談を受けやすいようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域の方々に参加していただき、サービスの状況、取り組みの報告、意見をいただく事でサービス向上に活かしている	運営推進会議は多岐にわたる方が出席し、利用者やホームの状況報告・課題報告・意見などを聞き、意見や要望など双方向的な会議となるよう努力している。町内の災害に対しての意見も交換している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	支所の福祉課、保護課等への手続きの際等に情報を伝え、協力関係を築けるよう努めている	支所の担当者と会い困難事例報告や相談・入居者の暮らしぶり・ケアの様子を伝えている。市主催のウェブ研修に参加したり、地域包括支援センターの職員と連絡を取り合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内において身体拘束適正化委員会を設立、定期的な身体拘束廃止に関する勉強会を開催し、職員間でも注意しながら防止に努めている	身体拘束をしないケアについて研修会で意見交換をし、日ごろのケアを振り返っている。個々の日々の状態をきめ細かく共有しながら、見守りの重要性を全職員が理解している。身体拘束適正化委員会も2ヶ月に1回実施し、利用者の自由な暮らしを支えている。虐待防止委員会でも勉強会を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修や勉強会へ参加し、資料を回覧することで共有し、職員同士で防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修や勉強会に参加し、職員間で資料を回覧、共有し利用者様に必要な事を検討、提案できるよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には管理者が内容の説明を行い、納得し同意を得た上で署名を頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会の際には家族へ声掛けし、お気付きの点がないか確認している。玄関に意見箱を設置や運営推進会議への参加で意見をいただく機会を作っている	面会・電話・手紙等で家族からの意見や要望を聞いている。本人からは入浴中や居室の会話の中で意見や要望を聞き取っている。本人・家族の要望を取り入れ、居室での面会や食事を適温で提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者が密に業務に入る環境により、業務の中で提案、意見を聞ける状況であり、その都度改善につながるよう検討した上で反映させている	管理者は日頃からコミュニケーションを図り、会議やミーティングでの意見を出しやすいよう心がけている。意見や要望が素早く届くようにしている。今出来る事を日々のケアに活かして励んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	取り組みやすい目標を立てて年間計画を立案し取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに内外部の大まかな研修案内により、必要な研修への計画を立てている。また、自己研鑽での処遇改善のポイントを付ける事で職員が自ら学ぶ意識が持てるよう支援している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で交流の機会は減っているがグループホーム連絡協議会、玉江校区コミュニティ会議へ参加する事で交流の機会となっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、本人より趣味、生活歴、病状等を聞き、困り事や要望を伺い、信頼関係が築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族と面談し、施設での生活や対応を説明、不安な事や要望を聞くことで安心して生活できるよう支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、医療機関やケアマネージャーから情報収集しカンファレンスを行い、対応している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の経験や趣味を活かし、役割を持っていただく事でお互い支えあい助けあわれている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月送付しているひまわり便りや面会時に近況報告を行い、家族にも協力いただいている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策を行いながら面会時ゆっくり会話できるよう支援、帰設後3日間居室対応となるが家族との外出もできるように支援している	電話や面会等、コロナ対策を取り利用者の精神的やすらぎの方法として、馴染みの店への買い物、家族との外出等、施設ルールを作り関係が途切れないよう支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者の性格や能力を把握し、レク、行事、役割を通し関係作りができるよう支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も入院先や入所先の担当者と連絡を取り情報提供しフォローしている。入院時は経過を把握し退院後、関係機関と連携し、入所調整等行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話や関わりを多く持ち、コミュニケーションを図りながら暮らしの中での要望等の把握に努めている	日々のかかわりの中で表情やしぐさ・会話等の中から希望や意向を聞いたり、家族の面会時や電話等を通して思いを把握している。意志疎通が困難な場合、職員間で情報を出し合い複数の記録簿も参考に検討して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時等を利用し、家族からの情報や本人との会話を持ち、入所に至るまでの生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身状態やADLに応じ、楽しみや意欲を持ちながら日々を過ごせるように努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	安心して生活ができるよう、身体状況を職員間や家族、関係機関と共有し、連携を図りながら介護計画へ反映させ、サービスの提供に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報共有し、ケアの実践ができるよう状態変化などをまめに記録し伝達に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況の変化や家族の思いをくみとりながらニーズに合わせて対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の暮らしを支える衣食住に関わる各業者、近隣の病院、警察や消防署、町内会や地域コミュニティ、包括や民生委員等と連携し、入居者が安心して過ごせるように努めている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿ったかかりつけ医や必要に応じて専門医の紹介への取り継ぎ、連携を図りながら支援している	協力医療機関をかかりつけ医とし、主治医による月1回の往診、訪問看護師による月1回健康チェックをしている。歯科の定期的指導・診療。眼科等も家族協力を得ながら複数医療機関と協力関係を密に結んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や異常が見られた際には訪問看護ステーションへ連絡、早期発見、早期受診に繋がっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院計画を確認し、情報交換や相談に努め、入院中の状態を把握し、スムーズな退院ができるように医療機関との協働を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族へ重度化や終末期に向けた指針の説明をおこない、かかりつけの病院と連携しながら終末期には看取りも実施し、全職員で支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取りの指針を説明し方針の共有を図っている。重度化や終末期には本人・家族の意向を優先し、主治医・看護師と連携し、全職員で方針を話し合い、安心して最後を迎えられる体制ができている。看取りの事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の救急方法や対応等の研修をおこない、マニュアルを掲示する事で職員全体が対応できるように努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施することでそれぞれの役割や避難手順を職員が把握できるようにしている	年4回、昼・夜間を想定して災害訓練を計画している。避難経路は廊下に添付し、消防署の指導を受け避難誘導や避難場所の確認をしている。防火管理者を中心に非常災害時の対策について研修を実施し、職員の理解と経験を積んでいる。備蓄は水・米・缶詰・レトルト食品等がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを敬う気持ちを忘れずに常に言葉遣いや態度、表情に気をつけて対応ができるように努めている	接遇研修を行い、個々に応じたケアを心がけている。人としての尊厳を大切に、言葉遣いや声かけは年長者として尊敬の気持ちを失わないように、やさしさと思いやりの心をもって接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己表現ができるような雰囲気作りや言葉かけを心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態や状況に合わせて塗り絵やパズル、散歩にて外気に触れるなど本人のペースで日々穏やかに暮らせるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	季節ごとに衣替えをおこない、その時季、気温にあった服装ができるよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる事を活かし見守りの中、もやしの根切り等の下処理を手伝っていただくことで、どんな料理になるのか想像したり出来上りを楽しみにされている	テーブルやお盆拭き等、利用者の残存機能を見ながら個々に食事準備をしている。栄養士作成の献立を職員が利用者のリクエストを取り入れ、栄養面にも気を付けている。食形態に配慮しながら、食事を楽しめるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日分の栄養、水分の摂取量が確保できるよう、本人の食べやすい形態に配慮したり、家族の協力を得ながら好きな飲み物を提供したりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行えるよう支援、自分で困難な方は介助、必要に応じて訪問歯科と連携することで清潔維持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄した時間の記録をつけることで尿意の曖昧な方のトイレ案内を行い、トイレでの排泄を支援している。	排泄パターンを把握し、動作や表情等、小さな情報も共有して日中はトイレでの自立排泄が出来ている。夜間は個人に合わせた排泄スタイルを見つけ、リハビリパンツやパットでの自立排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々適度な運動と水分摂取量の確認、排便チェックにて便秘予防に努めている。必要時は主治医の指示で下剤を服用している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望を伺い、気持ちに配慮しながら個別にて入浴して頂いている。入浴剤の使用や好みの温度でリラックスして頂けるよう支援している	入浴日は週2回以上、午前と基本的に決められているが、入浴順番や湯温・入浴時間は体調や意向に合わせて気持ち良い入浴支援をしている。入浴を拒む入居者には同性介助や職員の交替をし、声掛けを工夫して、入浴剤を使用しながら、無理強いしない入浴を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調等に配慮、都度声かけし休息、睡眠が取れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者ごとに個別のファイルを用意し、薬の準備、服薬の際に確認、マニュアルに沿って支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月、いけばなや誕生会、季節の行事を実施、日々の余暇時間にも塗り絵や折り紙、洗濯物畳や野菜の皮むき等、役割や楽しみへの支援をおこなっている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的ではないが余暇時間に職員との近隣への散歩や買い物をおこなっている。家族の協力をいただくことで、本人の希望する場所や自宅など出かけられるように支援している	利用者の体調や天気を配慮して近隣の散歩やウッドデッキでの日光浴を心がけている。今後入居者が望む、花見・散歩・ドライブ・外食等、出来るだけ戸外に出かけるよう、家族や地域の人々とコロナ禍の中でも外出支援へ取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は財布を持たれている。希望があれば家族へと伝え、必要品の購入ができるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙の投函代行や電話の取継ぎをし、お話ができるよう支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から廊下の共有スペースにいけばなや行事の写真、利用者の作った作品などを掲示し、テレビの音や日光、室温や湿度に配慮し、居心地の良い空間で過ごせるよう支援している	共用フロアは日光が差し込み明るく、温度・湿度をチェックしている。壁にちぎり絵等の作品を貼り、利用者参加で季節に応じた飾りつけで四季が感じられるよう工夫している。テーブルでは会話やぬり絵をしながら快適に過ごせる環境作りに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを設置し、自由に利用して頂く、食事の際も気の合う利用者同士が同じテーブルで召し上がれるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族の要望を伺い、思い出の写真や品物を持ち込んで頂く事で不安なく居心地の良い生活ができるよう工夫している	写真や使い慣れた化粧品など、本人の好みの物が持ち込まれている。タンスやハンガーがあり季節ごとの衣替えがやり易いように家族や本人と話し合いながら取り出しに工夫が施されている。温度・湿度を調整して居心地よく暮らせる環境ができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、食堂、トイレは安全でわかりやすい動線となっており、わかりにくい方には張り紙をするなど環境を整える事で自分で目的の場所へ辿り着けるよう支援している		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない